

風紋

vol.77 2023 / Spring

鳥取大学広報誌 FU-MON



農学部附属動物医療センター

人と動物の未来を育む

注目の研究 きのこ遺伝資源の収集・保存・提供に関する研究の中核拠点へ

私たちの研究室 地域学部地域学科人間形成コース 心理学・田中研究室

トリカツ! 体育会バドミントン部 全国大会の経験を糧に、さらなる躍進へ

トリリンの授業潜入レポート 老年看護学実習 里山生態実習Ⅱ(エコツーリズム)



読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様にプレゼントを進呈いたします。

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 7/31(月)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



鳥取大学
オリジナル
ランチトート
バッグ

合計
10名様

人を想う。未来を創る。

enetopia

鳥取ガス株式会社
鳥取ガス産業株式会社

エネトピアグループはガスや電気、通信だけではなく、地域活性のためのエネルギーもご提供いたします。
私たちと共にエネルギーの種を届けませんか?



未来を建てる



こおげ建設株式会社

〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷200番地2
Tel : 0858-72-0029 Fax: 0858-73-0668
URL <https://koge.co.jp>

地球と人にやさしい環境づくり



やまこう建設株式会社

代表取締役社長 岡田 幸一郎

本社 〒680-0903 鳥取市南陸 255 TEL:085728-5511 FAX:085728-8171
米子支店 〒683-0811 米子市鏡町 3丁目 90-4 TEL:085932-0911 FAX:085922-3214
松江営業所 〒690-0872 松江市奥谷町 73-1 メゾンかげやま 2-102号 TEL/FAX:085267-6000



世界中の大切な人々のため
ずっと愛される製品とサービスで
"食"を支える農業の発展に尽くします

三菱マヒンドラ農機株式会社

〒699-0101
島根県松江市東出雲町損屋667-1
TEL:0852-52-2111 <https://www.mam.co.jp/>

風紋のバックナンバーは、こちらから
<https://www.tottori-u.ac.jp/about/public/bulletin/fumon/>

鳥取大学広報誌 検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

■入学試験 0857-31-5061 ■研究・産官学連携 0857-31-5608
■公開講座・社会貢献 0857-31-6777 ■学生・学生生活 0857-31-5053
■授業料納入 0857-31-5029 ■学生就職支援 0857-31-5456
その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/contact/univ/> をご覧ください

編集発行 / 広報委員会広報誌編集専門委員会

2023年5月発行

筒井一伸(委員長・地域学部) 小野達也(地域学部) 藤岡直人(医学部) 塩崎一郎(工学部) 辻 渉(農学部)
滝波稚子(教育支援・国際交流推進機構) 保坂理和子(研究推進機構) 石田陽介(地域価値創造研究教育機構) 蔵田修一(総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018

[Eメール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>



農学部附属動物医療センター

人と動物の未来を育む

鳥取大学医学部に附属病院があるように、共同獣医学科にも附属の動物病院がある。そこは病気やけがに苦しむ動物たちと飼い主さんにとって“頼みの綱”であり、また共同獣医学科の学生にとっては臨床を学べる貴重な場所だ。両者が交わるこの病院は、地域の動物たちと人々を支え、獣医師を目指す若者たちの未来を育てている。

附属の病院だからこそできる
高度な動物医療を提供

現在、獣医学を履修できる大学は全国に17あり、そのうちの1つが本学の共同獣医学科だ。獣医学科には必ず附属の動物病院を設置することとなり、それがここ「農学部附属動物医療センター」（以下、センター）である。1953年8月に「家畜病院」として開設されたのがはじまり。当時は牛などの産業動物が中心だったが、時代の流れとともに犬や猫などの伴侶動物の診療が増加。また、獣医学教育の改革などもあり、2002年「動物病院」に名称変更。そして2010年に現在の体制となった。



獣医師13名、愛玩動物看護師4名（23年5月現在）が毎日の診療に当たる。しかし、センターが担うのは一次診療ではない。まちの動物病院のホームドクターから依頼を受けて行う「二次診療」で、難しい症例の精密検査や治療・手術等を手がけるのが大きな役割だ。副センター長の菱沼貢教授は、「センターは高度な医療機器を備えています。ここで精密検査や専門性の高い治療を行い、落ち着いたらまたホームドクターへお返しする。役割分担を明確にすることが地域の動物医療を守ることになる」と語る。

実際に動物に触れて学ぶ 貴重な臨床実習の場

先進的医療の提供と同時に、センターは重要な教育拠点でもある。刷新された「総合参加型臨床実習」が2017年からスタートしており、センターはその実習場所の一つ。主に伴侶動物などの小動物臨床の実習を担っている。菱沼教授は、「動物の命を預かる現場に接し、将来の職業につながるような知恵を得てほしい」と、学生たちの背中を押す。

4年後期に実施される「獣医学共用試験」を受け、合格しなければこの実習を受けることができない。シビアな基準を設定しているのは、獣医学の知識・技能が一定水準以上あることを保証し、学生が診療に参加することを飼い主さんに理解・協力してもらう必要があるからだ。では、センターでの臨床実習とはいったいどんなものなのだろうか。次ページからはその様子を紹介する。

能が一定水準以上あることを保証し、学生が診療に参加することを飼い主さんに理解・協力してもらう必要があるからだ。では、センターでの臨床実習とはいったいどんなものなのだろうか。次ページからはその様子を紹介する。

ひしぬま みつく
菱沼 貢 教授
鳥取大学農学部附属
動物医療センター 副センター長

大きく2つの役割を担っています!

地域の動物医療の中核として

センターは、一次診療であるホームドクターからの依頼を受けて診断・治療を行う「二次診療施設」です。多くの獣医師が在籍しており、CT、MRIといった高度な医療機器も備えています。中国地方全域だけでなく、北近畿エリアまでを包括し、提携病院は100以上。連携を取りながら診療を行っています。また、産業動物の診療・繁殖検診などにも貢献しています。



獣医学の臨床教育拠点として

小動物臨床の最前線であるセンターは、未来の獣医師を養成する臨床教育の場でもあります。5年次必修の「総合参加型臨床実習」において、学生たちは診療の流れを学び、各処置・検査等の手技を経験。座学で蓄えた獣医学の基礎知識と現場での実践がリンクすることで大きく成長します。





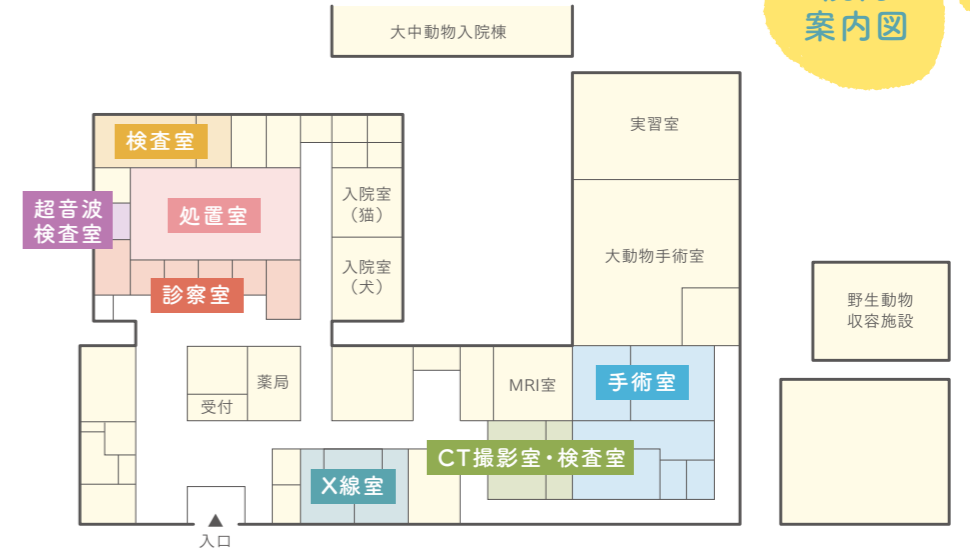
動物医療の最前線で学ぶ 臨床実習に潜入!

「総合参加型臨床実習」は共同獣医学科の5年生全員が受ける実践的な学びです。

「小動物」「産業動物」「病理診断」の3つがあり、このセンターでは小動物臨床の実習を行っています。どんな内容なのか、ちょっとのぞいてみましょう!



院内案内図



各種処置

問診を終えた動物を飼い主さんから預り、処置室で触診・聴診、採血、注射や点滴など必要な処置を行います。獣医師に教わりながら手で触ってしこりを確認したり、聴診器で呼吸音、心音を聴いたり。慣れてきたら足の血管や首の頸静脈からの採血も経験。動物の負担にならないような保定(ハンドリング)の仕方学びます。

レントゲン検査

クリアな画像を撮影する技術と、その画像を見て正しい診断を行うスキルを養います。撮影したい部位と機器の位置をきちんと合わせ、動物の姿勢に気を配りながら動かないよう保定するのが難しいところ。

そして最も大事なものは、画像からどんな診断結果を導き出すのか。自分なりの所見を担当医とディスカッションして深めていきます。



診察室で問診

問診の見学、または学生自身が飼い主に問診を行います。頭髪や白衣など身なりをきちんと整えることはもちろん、動物の病気やけがに不安を抱いている飼い主さんの気持ちに寄り添い、丁寧な言葉遣いで話すことが大切です。何を聞けば正しい診断につながるのかを考えながら、動物の様子をできるだけ詳しく話していただけるよう心がけます。



今の問診による腎臓の検査が必要なのかな?



臨床の現場は全てが手探り
大切なのは、考える力。

共同獣医学科の5年生は、1年間かけて「総合参加型臨床実習」(以下、実習)を受講する。センターで行うのは、主に犬猫を対象とした小動物臨床。1グループ6〜9人の編成で内科系・外科系に分かれ、7〜8日間ずつロー

テーションしながら取り組んでいる。

朝8時30分に集合し、まずは各科に分かれてミーティング。その日来院する動物はどんな症状で、何の検査を予定しているのか担当医の説明を聞く。学生も症例を担当するようにすれば、病態などを自身で説明するという。

9時診療開始、動物と飼い主さんが次々にやって来る。学生も診療室に入り、担当医の問診を見学。しかし、ただ見ていればいいのではない。どんな質問をし、何を聞き出しているのか、その答えからどんな疾患や病態が予想できるのかを必死に考える。なぜなら、問診後には担当医から「さあ、何の検査をする?」「どう診断する?」と投げかけられるからだ。「学生たちはうろたえますが、実習は考える力を付ける場なので」と井口愛子准教授。時間の許す限りディスカッションを繰り返して、能動的な学びを促す。

また、1つの症例を通して学べるよう工夫。例えば、初診は内科だった動物が外科手術を受けることになった場合、担当する学生は内科から外科のグループへ移動し、手術や術後管理、治療まで追うことができる。「実習後に『あの子どもになりました?』と予後を確認してくる学生もいます。そういう学びは大歓迎」と、芽生えた意欲を応援している。

えんどう よしふみ
遠藤 能史 准教授

鳥取大学農学部附属
動物医療センター 外科医

いぐち あいこ
井口 愛子 准教授

鳥取大学農学部附属
動物医療センター 内科医



手術見学

術衣を着て手術室へ、全体の流れや手技などを見学します。
手術前の手洗い・消毒、術衣やグローブ装着の仕方、
どんな設備・器具があり、どのように手術が進んでいくのか、
検査画像で見ていた患部はどうなっているのか、直接目視できる機会は貴重。
慣れてきたら、執刀医に手術器具を渡す「器械出し」を経験することもあります。

初めて見る手術
先生の手技を
頭に焼き付けよう



CT検査

どう治療が適しているか、手術ならばどう術式がいいのか、
患部の状態をもっと精密に知りたい場合に行う検査です。
動物を不動化する必要があるため、鎮静もしくは麻酔をかけます。
麻酔の場合は気管挿管も。学生たちはそうした手順を見学。
そして検査結果から最適な治療方法を考え、そのメリット・リスクまで検討します。

検査手技・診断

血液検査、尿検査、細胞診などの検査で採取した検体を
検査室に運び、それぞれの検査を行います。
例えば血液検査の場合、正しい評価ができる
「血液塗抹標本」を作ることがすごく大事です。
ちょっとしたコツが必要なので、まずはその手技を練習。
出来上がったスライドを顕微鏡で観察し、
細胞の様子から病気の正体に迫っていきます。



いらい
もじり
もじり
終わるから
ね

超音波検査

獣医師がプローブを当てて映し出した画像を見て、臓器に異常がないかを確認します。
CTやMRIよりも簡便に、しかもリアルタイムの“動き”まで見られるのが大きな特徴。
例えば心臓の弁や消化管の動き、血液の流れなど、
教科書では静止画だったものが動きを伴って見られるので、
身体構造や各臓器に対する理解が進みます。



学生の声



動物だけでなく、飼い主さんと向き合って

あらき たいち
荒木 太一 さん 農学部 共同獣医学科 6年

前足を骨折した犬の診察から検査・手術・術後管理まで、一連の流れを経験することができました。治療方針を決めるとき、動物の年齢や性格を考慮することは当然ですが、飼い主さんのご意向や家庭の事情なども尊重しなければならないのだと知りました。

問診の難しさも痛感。最初は何を尋ねればいいのか分からなくて、今出ている症状、これから行う処置や検査等に必要情報を飼い主さんから引き出すことが大切なのだ、先生に教えていただきました。実習を通して疾患に対する知識がまだまだ足りないと感じ、講義や教科書をしっかり復習しようと思っています。

症状から疾患や病態を探る難しさを実感！

おか みずき
岡 瑞季 さん 農学部 共同獣医学科 6年

授業では疾患名→症状という順番で学びますが、診断の流れは逆。1つの症状から複数の疾患が想定されるし、どの検査が有効で、その検査結果をどう読み解くのか、あらゆる可能性を考える必要があります。問診や検査結果を基に先生とディスカッションを重ねましたが、正しい診断にたどり着くことはとても難しかったです。

先生方は常にさまざまな文献・論文を読んで知識を蓄積・アップデートし、しっかりとした根拠を持って診断されていることを知りました。また、飼い主さんのお話をたくさん聞き、丁寧に対応しておられる様子は、実習でなければ得られない学びでした。

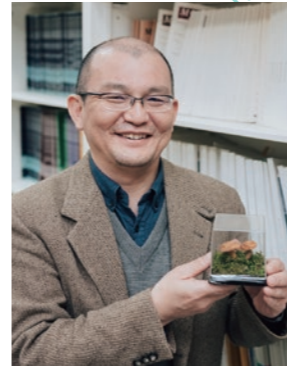
心して受けとめてほしい
飼い主の思いと命の重み

実習を通して学んでほしいことの一つに、「飼い主さんとのコミュニケーション」がある。二次診療施設というセンターの性質上、来院する動物は比較的重い疾患を持っている場合が多く、飼い主さんもナーバスに。だからこそ問診時は、身なりや態度をはじめ、丁寧な言葉遣い、分かりやすい説明を心がけてほしいという。外科の遠藤能史准教授は、「動物だけ、疾患だけに注目しがちですが、その向こうには飼い主さんがいます。不安を感じさせないようにするのも獣医師の務め。問診はプレッシャーを感じる場面ですが、飼い主さんとしつかりコミュニケーションをとり、命の重みを感じながら、正確な診断・治療ができるようトレーニングしてもらいたい」と、獣医師としての心構えを説く。

はじめは、非日常を味わえる実習にワクワクしていた学生も、動物たちの命に向き合うたび、真剣な目つきに変わっていくという。いろんなことを吸収しようと、積極的に質問してくるようになると「成長を感じる」と両准教授。将来彼らが小動物臨床に携わるかどうかは分からないが、センターで得た学びは大きな宝となるはずだ。

注目の研究

きのこ遺伝資源の収集・保存・提供に関する研究の中核拠点へ



いちやなぎ つよし
一柳 剛 教授
 農学部附属 菌類きのこ遺伝資源研究センター センター長
 専門 有機合成化学
 趣味 楽器演奏

菌類きのこが、ライフサイエンス研究推進に向けた重要な生物資源(バイオリソース)として認められ、本学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターがきのこリソースの収集・保存・提供の中核拠点として整備を進めることになりました。国内外の関連機関との連携も進めることで、きのこ研究がより広がることが期待されています。



図1 NBRPは目的に適った収集・保存・提供や技術開発等を行うため、4つのプログラムが連携を図りつつ実施している。



図2 世界最大級の1850種9200株のきのこの菌株を凍結保存している液体窒素気相タンク。

[注] ナショナルバイオリソースプロジェクト ライフサイエンスの総合的な推進を図る観点から、2002年度より、国が戦略的に整備することが重要な実験動植物や微生物等のバイオリソース(研究開発の材料としての動物・植物・微生物の系統・集団・組織・細胞・遺伝子材料等及びそれらの情報)について、体系的な収集・保存・提供等の体制整備を行うもの。

積み重ねてきたきのこ研究

農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター(以下、センター)は、2022年4月から5年間、文部科学省の「第5期ナショナルバイオリソースプロジェクト」(以下、NBRP)に採択され、国内のきのこ遺伝資源を収集・保存・提供する中核拠点として整備することになりました(図1)。センターがきのこ

この遺伝資源や関連情報を提供することで、生命現象の解明、医薬品開発、生物農薬開発にむけた基礎研究だけでなく、栽培や育種技術の開発、新しい食用きのこ品種の創出などの応用研究の発展が期待されています。

センターは、鳥取県と日本きのこセンター菌蕈研究所の支援と協力を得て2005年に開設されました。センターの研究と業務は基礎から応用まで

限られていますので、全国の研究機関、アマチュアの収集家を含めた大きなネットワークを作り、それぞれが収集したきのこ菌株を寄託してもらうことで、リソースの保存数を増やしていきたいと考えています。このネットワークは、菌株収集だけではなく、遺伝資源を利用するユーザー側とも連携、さらに多様なライフサイエンス研究グループへと繋がることを期待されます。そしてこれらの中から新しい研究が生まれることを期待しています。

実施する計画で、現役のきのこ研究者、きのこ生産を担う研究者、技術者のスキルアップに貢献したいと考えています。現在センターには農学部所属の専任教員4人が業務と並行して学部と大学院教育を、特任教員1人と兼任教員6人が研究を行っており、昨年12月には新任の助教を迎え12名体制となっています。農学部と大学院農学専攻できのこに関する多様な講義を提供し、卒業論文研究、修士・博士学位論文研究

そのために昨年度は情報発信ツールの強化に力を入れました。センターのホームページを従来のスタイルから、きのこ遺伝資源に関する情報を入手しやすいスタイル、遺伝資源の提供手続きがしやすいスタイルに変更したほか、NITE(独立行政法人製品評価技術基盤機構)が無料で公開している生物資源データベースフォーム(DBRP)とも連携してきのこ遺伝資源に関する情報を求める研究者がアクセスしやすい環境作りを進めました。本誌が発行される頃にはリニューアルしたセンターのホームページをご覧いただける予定です。

きのこ資源を使う若手研究者の育成も目標のひとつです。日本きのこ学会と共催したワークショップを通じてきのこ遺伝資源の保存技術の指導・提供を

習得できるように指導しています。NBRPに採択されて1年になりましたが、採択の効果は大きく、問い合わせ件数だけでも約5倍に増えました。興味深いのは思いもよらなかった業種からの「きのこ遺伝資源を研究で使ってみたい」との問い合わせがあることで、反響の大きさに大変驚いています。センターでのNBRP事業における今後の目標は、提供できるきのこ遺伝資源を拡充すること。きのこ遺伝資源を活用する研究に取り組み、ライフサイエンス研究の生物資源としての可能性を示し、利用者数の拡大を目指しています。最終的にはセンター保有のきのこ

遺伝資源を利用することで、新しい食用きのこや医薬品、材料が創出される

ことが目標です。

幅広いですが、特に重要なものの一つに菌類きのこ遺伝資源の収集・保存・提供があります。具体的には、きのこを山林などの自然界から採取、もしくは研究で使用されたきのこを寄託してもらう方法で菌株を「収集」しています。採取したきのこを組織に分けたあと形態と遺伝情報に基づいて分類します。その後分類した遺伝資源をマイナス170度にて凍結し「保存」します(図2)。研究に必要な際際には元の状態に復元して研究者に「提供」するという業務です。センターでは約15年かけて、設立時に約900種3000株だったきのこ菌株の保有数を約1800種9200株まで増やしてきました。これは国内のきのこ遺伝資源としては最大で世界でもトップクラスです。これらのうち品質管理可能な1850株は遺伝情報と合わせてHP上で公開し、研究者等に提供しています。今回、これらの取り組みと成果により、きのこ遺伝資源が日本の生物資源(バイオリソース)として重要である

と国に認められ、センターがNBRP事業に参画することがまりました。言われていますが、そのうち名前が付いているのは数%だけです。きのこはカビの仲間、シイタケのように地上部に胞子を作るための大型の器官(子実体)を作るものを指します。子実体形成の仕組みはまだ明らかにされていません。よく松茸がなぜ人工栽培できないのか?と質問を受けますが、まだ分からないことが多い生物なのです。それだけに興味が持たれる生物でもあるのです。

センターが提供しているきのこ遺伝資源は、分類などの基礎から医薬品開発などの応用研究まで幅広い分野に用いられています。例えば、皮膚のメラニン生成を抑える物質、植物の成長を促進する物質、農産物の病害菌やカビの生育を抑える物質、農薬の分解を促進する物質、自動車などの内装の材料、革の代替材料などがあります。

中核拠点整備と研究ネットワーク形成

NBRPの中核拠点整備における大目標は、きのこ遺伝資源の収集機能を強化すること、公開数を増やし、多くの研究者等に提供し利用していただくことです。まず収集では、センター教員による採取で増やせる遺伝資源数は

無限の可能性を秘めるきのこ

きのこは世界に150万種あるとも

私たちの研究室



地域学部地域学科 人間形成コース

心理学・田中研究室

担当教員 田中 大介 准教授

人間のものの見方や思考の仕方を、 実験や調査で得たデータから解明しています



こみなみ ゆうか
小南 優華さん

地域学部地域学科 人間形成コース4年



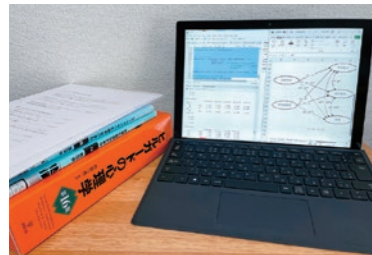
おがた ゆうと
尾形 優斗さん

地域学部地域学科 人間形成コース4年



いわもと みお
岩本 美音さん

地域学部地域学科 人間形成コース4年



研究テーマ

なぜ人の成功は妬ましいのか
「妬み」の原因を探る

他人はなぜ、人の成功を妬ましく思うのでしょうか。研究では「妬む」という感情を、他人を強くうらやんで憎む「悪性妬み」と、他者のようになりたいと思う「良性妬み」、ただ「すごい」と思う「賞賛」の3つに分けて、さまざまな因子との関連を調べました。

その結果、自尊感情の高い人ほど「悪性妬み」を抱きにくいことが明らかになりました。また、他者が成功した事柄そのものが自分にとって重要であるほど「良性妬み」を強く抱く、ということが、取得したデータから実証されました。以上のことから、自尊感情や領域重要度などの内面的な要因が、その人がどんな妬みを抱きやすか大きく影響している可能性があることが分かりました。



研究テーマ

地元への愛着は
どうやって生まれるのか

「地元」という同じ言葉を聞いても、人によって抱く感情は異なります。「地元」に含まれる多様な背景を、自由に記述された文章から言葉の出現頻度などに着目して分析する「テキストマイニング」という手法を用いて、全国の大学生を対象に調査しました。

地元に対して良いイメージを持つ地元志向性の高い人の文章には、「親」や「家族」などの言葉が多くみられ、親や家族と良い関係性を築いている人は地元への愛着も強いことが分かりました。一方、地元志向の低い人は、地元は「自分が生まれた場所」というだけで特別な思いを持っておらず、他に「生活」「不便」などの言葉が多く見られたことから、生活面で否定的に捉えている傾向にあることが分かりました。



研究テーマ

左右で違うものを見たら？
人間の視覚の不思議に迫る

両目で見ているいつもの風景。もし、左右の目で違う景色を捉えたとき、どんなふうに見えるでしょうか。その謎を解明するため、左右の目に違う画像を示すことができるステレオスコープという装置を使い実験を行いました。

傾き方の異なる正方形を左右の目にそれぞれ呈示し、角度差による見え方の違いを調べたところ、ステレオスコープを使わずに両目で見た場合は角度差があると理解できた図形も、ステレオスコープを通して見ると、同じ一つの正方形に見えることがあると分かりました。このことから、左右で異なる画像を捉えても、脳や眼球運動の働きで画像のずれを補正し、一つの正方形に見えるようにする、人間の脳の不思議な現象の一端を解明することができました。

心理学を通じて他者への理解を深め、自分を見つめ直す



「直近5年以内の」

卒業生の主な進路

鳥取県庁、兵庫県庁、岡山県庁、鳥取市役所、高知県教育委員会、神戸市教育委員会、LITALICO、NHK鳥取放送局、毎日新聞、ユニクロ、ドコモ、山陰合同銀行、島根銀行、トマト銀行 ほか

人は、生まれ、育っていく中で、親や地域の人たち、学校の先生など、たくさんの人と関わって得た知識の重なりから、自分の中心となる“考え方”を形成していく。そして、その“考え方”を基に「次にどうすべきか」を無意識に選んでいるという。私が見ている世界は、他の人にも同じように見えているのか。あの人を「妬ましい」と思ってしまうのはどうしてだろう。「地元」という言葉から浮かぶイメージが人によって違うのはなぜ。実験や調査で得たデータを分析し、そうした疑問を解き明かしていく。

人が知識を習得したり、意思決定したりする過程を研究する認知心理学と、人の心と体の成長や変化を研究する発達心理学を専門に、幅広いテーマを扱う田中研究室には、毎年、個性豊かな学生たちが集まり、田中准教授と“とことん”議論を深めている。そうした対話やデータの分析から「こういう考えの人もあるんだ」「この問題の原因は意外にささいなことなんだ」などと他者への理解を深め、やがて、おのずと自身を見つめ直していくという。心理学研究を通じて“本当の自分”と正面から向き合った青年たちは、より豊かな人生へと新たな一歩を踏み出していく。



白いシャトルと笑顔舞う 和気あいあいの部活です！

体育会バドミントン部は、鳥取キャンパスの第1体育館で、水・日曜日以外の課外に練習を行っています。部員は現在、男子19人、女子6人。経験者が多いですが、初心者も大歓迎です！

準備運動を行った後、正確なフォーム・コースを意識しながら対面で打ち合う「基礎打ち」、いろんなパターンでノッカーが打ち出したシャトルを打ち返す「ノック」など、各人のレベル・課題に応じたメニューで練習を進めていきます。大会直前にはゲーム練習を取り入れ、実戦力を養います。

声を出し、励まし合いながら練習しているので、笑顔が出るくらい和気あいあいの雰囲気です。楽しくシャトルを打ち合うことで生まれる仲間同士の絆を大切に活動しています。



のある選手が、複数人いることが僕らの強み」と、チーム力をつかんだ勝利をかみしめた。

仲間と高め合える楽しさも

夢の大舞台インカレは22年10月、山梨県甲府市で開催された。緊張の1回戦、対戦相手はなんと強豪・中央大学。「ショットの質、スピードが全然違う。普通のラリーすら返せないくらい」「相手のサーブコースが見えず、気付いたら決められていた」と実力差を思い知った。結果は0-3と完敗。それでも「全国トップクラスのショットを体感できただけでもインカレに出場した甲斐があった」と前向きに捉え、貴重な経験を喜んだ。

昨年度を超える戦績を目指し、今日も懸命にシャトルを打ち込む。しかし彼らは、勝利だけを追求しているわけではない。「お互いにアドバイスし合ったりペアの動きを話し合ったりと、仲間とコミュニケーションをとることが楽しい。試合に勝つこととは違う面白さがあり、それを先輩たちにも伝えたい」と、部活を通して育まれる「つながり」も大切にしている。それこそがスポーツの真価であり、きっと彼らを「本当の強さ」へと導いてくれることだろう。

CHECK THIS OUT!

鳥大生の活躍を紹介します

体育会バドミントン部

トリカツ！



※撮影時のみマスクを外しています。

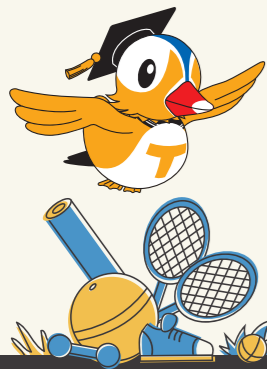
全国大会の経験を糧に、さらなる躍進へ

実力ある選手がそろい、男子団体がインカレ出場！

今、体育会バドミントン部の活躍から目が離せない。昨年度、第42回中国国学生バドミントンリーグ戦(2022年4月・愛媛県開催)にて、1部リーグに昇格したばかりの男子団体がいきなりの準優勝。勢いそのままに、続く第66回中国国学生バドミントン選手権大会(22年7月・岡山県開催)の男子団体1部でも準優勝を果たし、第73回全日本学生バドミントン選手権大会(以下、インカレ)への出場権を獲得したのだ。

また、中国五県の国立大学対抗で行われる第73回中国五大学学生競技大会(22年9月・岡山県開催)では、男子団体が見事優勝。約30年ぶりの快挙を達成した。さらに男子ダブルスで、横浦龍さん(大会当時地域学部4年・22年度卒業)、辻伸崇さん(大会当時工学部2年・現在3年)ペアが3位に入賞している。

主力としてチームを牽引してきた横浦さんは、好成績の理由を「仲間と支え合ったから」と語る。「中四国の他大には僕らより強い選手がいるけど、突出して強い選手が1人だけでも団体戦で勝つことはできない。3つ、4つと過半数のマッチを勝ち取れる地力



Regional Sciences

Engineering

Agriculture

Medicine

『とりりん』の 授業潜入レポート

とりりん記者が取材してきた
授業の様子をご紹介します!



農学部生命環境農学科里地里山環境管理学コース 3年

授業名

里山生態実習II (エコツーリズム)

3泊4日の泊りがけで、教育研究林蒜山の森にてクロスカントリースキーやスノーシューによる森林・樹木観察、雪上火おこし実習などを行います。3日目に行う薪割り実習は、身近な里山の木質バイオマス資源を燃料として活用する方法を、体験を通して学ぶことを学修目標としています。また、作業の安全性に最大限配慮して、世界一安全な薪割りを目指しています。



いよいよ本番だよ！
頑張れ！！
慣れてくると、
みんな薪割職人みたい！
かっぺいい〜

まずは薪なしで
動きの練習！
もっと腰下げて〜

自動薪割機を体験。
こんな便利なものがあるんだね



受講した学生の声

たかみつひろし
高光 宗星さん

今回の授業の中で樹木の冬芽の観察がありましたが、60種を超える樹木が蒜山にあることに驚きました。



担当教員

農学部生命環境農学科 日置 佳之 教授 / 永松 大 教授 / 山中 啓介 准教授

医学部保健学科看護学専攻 3年

授業名

老年看護学実習

高齢者の身体的・心理的・社会的変化の特徴と人生の統合期である発達課題を理解し、看護実践能力を養うことを目的とする授業です。生活の場、療養の場、医療の場に合わせた看護の機能や他職種連携、社会福祉サービスなどについて学びます。

写真は、コロナ禍における病院実習の代替として、臨床場面に近い状況で行うシミュレーショントレーニングを行い、学修を補完することによって目標達成を目指している様子です。



ふうふう、今日は、高齢患者さんを
車椅子で理学療法室へ
お連れするんだね。

「体調はいかがですか？」
まず、患者さんの顔色や表情を
観察するよ。



「ゆっくり立ちましよう。
支えますね。」
「イチ・ニノ・サツ」と
声をかけてタイミングを
合わせるんだね。



受講した学生の声

はやし ゆい
林 優衣さん

看護実践の場では、想定外の事態が起きることは多々あり、その場合に
応じた柔軟な対応ができるように意
識しています。



担当教員

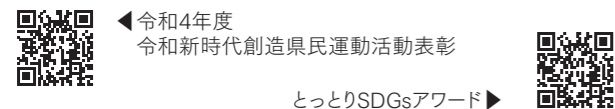
医学部保健学科 成人・老人看護学講座 三好 陽子 准教授

本学学生団体が
課外活動表彰を学長に報告

2023.1.30



本学の学生団体が、「令和4年度令和新時代創造県民運動活動表彰」（鳥取県主催）および「とっとりSDGsアワード」（鳥取県および㈱鳥取銀行共催）において表彰されたことを学長に報告しました。これらの賞は、鳥取をフィールドに活動し地域に貢献している団体を表彰するもので、本学からは、「令和4年度令和新時代創造県民運動活動表彰」においては2団体、「とっとりSDGsアワード」においては4団体が受賞しました。



令和5年度鳥取大学入学式を挙行

2023.4.6



令和5年度鳥取大学入学式は、新型コロナウイルス感染症対策のため、出席者を入学生および教職員に限定しながら、4年ぶりに全入学生が一堂に会する形で挙行了。今年度は学部生1,177名、大学院生345名が入学を許可されました。

中島学長は、式辞で「これから鳥取大学で過ごす時間が、皆さんにとって自分を磨き、自分を高める、有意義な時間となることを強く願っています」と新入生へ言葉を贈りました。新入生を代表して、滝元美羽さん（医学部）が「大学で出会う仲間たちと支え合い、助け合いながら、多様な文化や考え方を理解し、多角的かつ柔軟な視点を持って社会に貢献できる人間に成長していきたいです」と宣誓しました。

WHAT'S NEW?

大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、鳥取大学の最新情報をご紹介します。

日本海ケーブルネットワーク株式会社と
連携協定を締結

2023.2.7



日本海ケーブルネットワーク株式会社（以下、NCN）と包括連携協定を締結しました。本協定では、両者が蓄積する成果や情報を活用し、大学の研究教育活動や学生の課外活動などの情報を積極的に地域に発信し、地域に広く知っていただく機会を増やすとともに、NCNの持つ技術を活用した地域課題解決や学生等の人材育成に資することを目的としています。

中島学長からは、「大学の研究や公開講座、学生が制作した動画などを地域の皆様に見ていただく機会が増えることは大学の発信力強化につながる。NCN様との協力関係を整えることにより、地域活性化にさらに貢献していきたい」と抱負が語られました。



令和4年度
鳥取大学卒業式
学位記授与式

3月2日、米子地区卒業式および学位記授与式を米子コンベンションセンター（BIGSHIP）多目的ホールにて、3月18日、鳥取地区卒業式および学位記授与式をとりぎん文化会館梨花ホールにて挙行了しました。

今年度は、学部1,084名、修士課程（博士前期課程）302名、博士課程（博士後期課程）33名の計1,419名がそれぞれの課程を卒業または修了し、中島学長から各学部および研究科の総代に学位記が授与されました。

鳥取地区卒業式・学位記授与式で中島学長は、「卒業生修了生の皆さまには、社会の中核となって活躍し、社会を支える人材となっていただくと同時に、文化や芸術、趣味を楽しめる教養豊かな人、人間性豊かな常識ある人になってほしいと願っております」と告辞を述べました。卒業生総代の梶原萌愛さん（農学部）は、「鳥取大学の掲げる『知と実践の融合』によって培われた問題解決力と知的創造力は、多様性が求められる現代社会において、人々の生活を支え、より良い社会にいくために重要な力です。私たちは鳥取大学の卒業生として、それぞれの立場で地域規模あるいは世界規模から、この社会をより良くするために日々邁進してまいります」と答辞を述べました。



Many thanks

鳥取大学の基金への皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

本学の基金へのご協力に厚くお礼申し上げます。皆様からの温かいご支援のお陰を持ちまして、令和4年度も学生への支援等の事業を実施することができました。ご寄附を賜りました全ての皆様に重ねまして心よりお礼申し上げます。

令和4年度に実施した事業のご報告

【みらい基金】

学生支援事業の一環として、遮音個室タイプの個人学修用ブースを中央図書館に1台、医学図書館に2台設置し、吸音ワークブース4台を中央図書館に設置しました。遮音個室タイプのブースは、学生の発声を伴う語学の授業やオンライン授業等への活用が期待されています。吸音ワークブースは、周囲からの視線を遮る吸音パネルに包まれており、より集中して学修できるものです。これらのブース設置により、学生の多様なニーズや、ウィズコロナ時代に対応した新たな学修環境を附属図書館に整備することができました。



【修学支援事業基金】

奨学生のうち、成績上位者330名を対象に、奨学金として学生1人につき3万円ずつを給付しました。

修学支援事業基金から支援を受けた学生からの感謝の声

- 私の父母はすでに定年を迎え、これまで以上に実家の経済状況が苦しくなったため、かねてより受験したいと考えていた資格試験を受けられるか悩んでいたところ、このような機会を頂けたことに感謝してもしきれません。いただいた奨学金は資格試験費や食費に充てさせていただきます。(工学部学生)
- 私は、看護について学んでおり、卒業後は看護師として働き、患者・家族に寄り添った看護を提供することで社会に貢献していきたいと考えています。コロナ禍の制限によりアルバイトをすることができず、経済的に困窮していた私にとって今回の給付はとて有難いものでした。(医学部学生)
- 私の家は母子家庭で、妹も大学生のため二人分の学費がかかり、常に家計が厳しい状況です。また、アルバイトもコロナウイルスの影響で未だに時短営業を行っており、収入は不安定です。そのうえ学期の始まりは教科書代などの支出が特によくなりやすいため、捻出できるのが不安でした。今回いただいた奨学金で教科書を購入し、より一層勉学に励もうと思います。この度は、本当にありがとうございました。(工学部学生)

みらい基金

本学の基本理念に基づく目標の達成のために助成し、もって本学の振興に資することを目的としています。

- 1 教育研究支援事業
教育研究の設備整備、高度化の支援などを行います。
- 2 学生支援事業
優秀な学生への奨学金、課外活動の支援などを行います。
- 3 国際交流支援事業
本学学生の留学、外国人留学生の修学、学術交流の活性化の支援などを行います。
- 4 地域貢献支援事業
地域との連携推進、産官学の連携強化の支援などを行います。
- 5 若手研究者等支援事業
学生又は不安定な雇用状態にある研究者が行う研究活動の支援などを行います。
- 6 その他
その他の事業で、鳥取大学の発展に資する事業を行います。

修学支援事業基金

経済的理由により修学が困難な学生を支援することを目的としています。

- 1 授業料等免除事業
授業料、入学金又は寄宿料を免除する支援を行います。
- 2 奨学金事業
学資を給付又は貸与する支援を行います。(鳥取大学とりん奨学金)
- 3 留学支援事業
海外への留学に係る費用を支援します。
- 4 TA・RA事業
学生を教育研究に係る業務に雇用するために係る経費を支援します。

鳥取大学では、学生・若手研究者等支援、教育研究、国際交流及び地域貢献などの事業を支援するため、基金を設置しています。

ご寄付に関するお問い合わせ 国立大学法人 鳥取大学 総務企画部 総務企画課 〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 Tel.0857-31-5006 ★詳しくは... 鳥取大学の基金

今号では、以前より「特集で取り上げてほしい」というお声を読者の皆様より多くいただいたておりました。動物医療センターを特集しました。ご要望いただいていた皆様、誌面はいかがでしたでしょうか。皆様楽しんでいただけておりましたら幸いです。また、今号は令和5年度の初回の発行の号となります。新入生及び新入生の保護者の皆様、初めてご覧いただく風紋はいかがだったでしょうか。これから卒業まで風紋を毎月ご自宅へお送りさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。風紋は鳥取大学についてわかりやすくお伝えする広報誌です。バックナンバーも本学公式Webサイトに掲載しておりますので、ご覧いただけますと大変うれしく思います。今年度は8月、11月、2月に発行を予定しております。読者の皆様読んでいて楽しい、ためになる広報誌を目指してまいりますので、引き続き風紋をよろしくお願いたします。

編集後記 EDITOR'S NOTE

美味しい、楽しい、学内の食堂



メニューが豊富で組み合わせ自由のセルフサービス形式。朝食から夕食まで食べることができます。シーズンメニューや、全国ご当地フェアメニューなどの企画も大人気!



カフェテリア食堂 Mare(マーレ)
営業時間 平日 / 10:30~20:00
土曜日 / 11:30~14:00
休業日 日曜日・祝日

医学部食堂
営業時間 平日 / 11:00~19:30
休業日 土曜日・日曜日・祝日

1 鶏ぱん唐揚げ

2 チキン南蛮

3 鳥大生が食べる人気メニューベスト

3

鳥大生が食べる人気メニューベスト

3

3 ハンバーグ

鳥大生の定番人気!! 迷った時こそ、いつもの味をご賞味あれ!! 食堂では約20種類の唐揚げメニューを提供しています。

お箸で切れるほどの柔らかいお肉が特徴。ボリューム感があり、みんなに愛される一品です。

定番の味の他にも野菜たっぷりソースなど種類も豊富です。季節感のあるメニューは食堂でチェック!!

テイクアウト弁当としてもご利用できます!!

特別 チャーハンからあげ丼

温かいホット弁当を学内で提供しています。ホカホカの状態で食べる事ができますので、午後の授業も頑張れます!!

学生証1枚で過ごせる、キャンパスライフ!

鳥大生の身分証明となる「学生証」は大学生活のあらゆる場面で活用されています。

授業の出席確認

専用のカードリーダーを用いて、授業の出席登録ができます。

学内生協食堂の利用決済(ミール)

現金が無くても気軽に食堂利用が可能です。どのお店に行くか、何を食べるか毎日が楽しみ!!

教科書購入

例年4月・10月に学内特設会場にて購入することができます。講義内容を確認の上、準備しましょう。

キャッシュレスで簡単便利!!